

ご意見の提出方法 下記のいずれかの方法にて、ご提出ください。

◆電子申請システム

都市整備局上瀬谷整備推進課 市民意見募集WEB ページに掲載の電子申請システム もしくは右記QRコードから申請ください。

※メンテナンス時間中（不定期）は、御利用いただけません。



電子申請システム

◆郵送

下のハガキを切り離してご使用ください。 ※2023（令和5）年1月20日消印まで有効です。

◆FAX

都市整備局上瀬谷整備推進課（045-550-4098）までお送りください。

◆持参

都市整備局上瀬谷整備推進課（市庁舎29階）までお持ちください。

受付時間：午前8時45分～午後5時

（土日祝日、年末年始（12月29日～1月3日）を除く）

※期間外のご意見は受け付けられませんのでご了承ください。

【FAX・持参について】

様式は特に決めていませんが、
①お住まい ②年齢 ③本件に関する意見の3点をご記入ください。
また、具体的なページや項目名など、どの部分に関連する意見かが分かるようにご記入ください。
（例：P.〇〇の〇〇について、～）

<本編の閲覧方法>

○都市整備局上瀬谷整備推進課 市民意見募集WEB ページ

上瀬谷 デザインノート

○各区役所広報相談係、市民情報センター（市庁舎3階）



市民意見募集WEBページ

【注意事項】

- ご意見に対する本市の考え方は、後日、都市整備局上瀬谷整備推進課 WEBページで公表します。
- ご意見への個別の回答は行いません。また、ご意見を正確に把握する必要があるため、電話や口頭でのご意見の受付は行いませんので、あらかじめご了承ください。
- いただいたご意見の内容は、氏名、住所、FAX番号などの個人情報を除き、公表する可能性があります。
- ご意見に付記いただいた個人情報は「横浜市個人情報の保護に関する条例」の規定に従い適正に管理し、ご意見の内容に不明な点がある場合等の連絡・確認の目的に限って利用します。

※ 切り取り

郵便はがき



料金受取人払郵便

231-8790

005



差出有効期間
令和5年
1月20日まで
(郵便切手不要)

横浜市中区本町6-50-10

注意
横浜市都市整備局
上瀬谷整備推進課 行

※この用紙ははがきとして利用することはできません。

— よろしければ、あなたの情報をご記入ください —

■お住まい
横浜市内（ ）区 ・ 市外

■年齢
20歳未満 20代 30代 40代
50代 60代 70代 80歳以上

今後の流れ

<令和4年12月21日～令和5年1月20日>
「旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画
デザインノート(案)」の市民意見募集

横浜市旧上瀬谷通信施設地区活用事業審査委員会
による審議など

事業者公募開始

観光・賑わい
地区
募集要項

【添付資料】
旧上瀬谷通信施設土地利用
基本計画デザインノート

観光・賑わい地区事業者公募締切

観光・賑わい地区事業予定者の決定

発行：2022（令和4）年12月
【お問い合わせ・窓口】
横浜市都市整備局上瀬谷整備推進課（市庁舎29階）
〒231-0005横浜市中区本町6-50-10
電話：045-671-2061 FAX：045-550-4098

『旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画デザインノート(案)』 について

市民の皆様からのご意見を募集します

募集期間：令和4年12月21日(水)～令和5年1月20日(金)

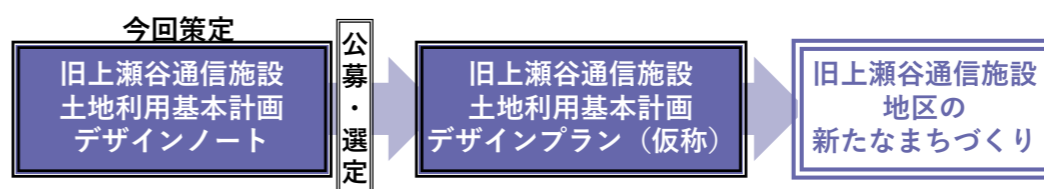


■旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画デザインノートとは

旧上瀬谷通信施設は、2015（平成27）年6月に返還された米軍施設跡地であり、民有地、国有地、市有地をあわせ、約242ヘクタールに及ぶ首都圏においても大変貴重な広大な土地です。

旧上瀬谷通信施設地区(以下「本地区」)において、国際園芸博覧会の開催を契機として、豊かな環境と共生した新たな活性化拠点を形成するなど、郊外部の新たな価値を創造し、横浜の未来につながるまちづくりを進めます。

そこで、2020（令和2）年3月に策定した「旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画」をより具体化し、「観光・賑わい地区」の事業者公募において、「**地区全体で目指す姿**」を提案者にメッセージとして示すことで、**質の高い提案を引き出し、より良い土地利用を誘導**することを目的として、「旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画デザインノート」（以下「デザインノート」）を策定します。



旧上瀬谷通信施設地区のデザインの考え方

■本地区のデザインの考え方

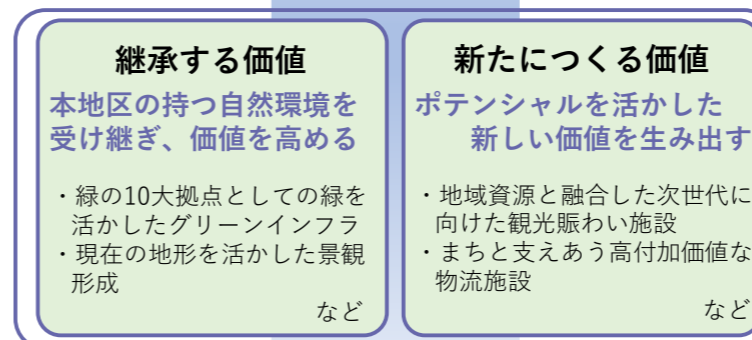
本編 P.6

■本地区のまちづくりに期待される効果

本編 P.7

まちづくりによって「ポテンシャル」を高め、**旧上瀬谷通信施設地区の価値を最大化**することで豊かな環境を活かした郊外部の**新たな活性化拠点**を形成

「持続可能な都市モデル」を創出



旧上瀬谷通信施設地区のポテンシャル

自然 農業 立地

【新たな活性化拠点について】

◎都心臨海部との相乗効果を図り、横浜市全体の活性化を促す郊外部の新たな活性化拠点

【旧上瀬谷通信施設地区及び周辺への効果】

- グリーンインフラを活用することにより、緑の10大拠点としての環境を継承
- 観光・賑わい地区のテーマパークなど集客施設の整備等、次世代に向けた土地利用による地域経済への波及
- 地区周辺も含めた利便性・防災性の向上や、身近な自然や賑わい創出等による地域社会・コミュニティへの好影響
- 周辺住民をはじめとする市民のまちへの誇りや愛着の醸成

【広域的な効果】

- 全国からの物資・来街者・情報が行き交う大規模な物流・賑わい拠点
- 先進的な取組を誘導し新たな持続可能な都市モデルとしての発信拠点



物流地区

本編 P.13~p.17

東名高速道路等との近接性を活かし、自動運転トラックや後続車無人隊列走行等の最先端技術の導入や本市で検討中の新たなインターチェンジと直結することで効率的な国内物流を展開する基幹物流拠点の形成が期待されます。

物流地区は、物流関係以外の来街者にとっても自動車交通の入口となるため、まとまりのある緑量の確保、視認性の高い緑化の効果的な配置により緑豊かな風景を再構築することが望まれます。

- まちと支え合う次世代物流拠点の形成
●高付加価値な新たな物流の実現
●周辺や環境に配慮したグリーンインフラ・脱炭素への取組
●災害時の円滑・確実な物流

農業振興地区

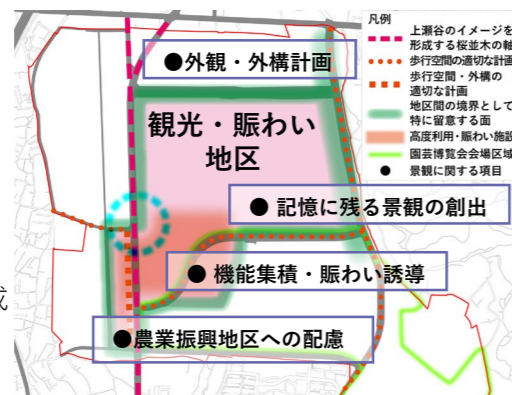
畑地かんがい施設の整備等を進め、地域の農業生産力を高めていきます。さらに、都市と農のバランスの取れた郊外部の拠点となるまちづくりを実現させるため、これまでの歴史ある農業も継承しつつ、新たに大学や企業とも連携を図ることにより、新たな都市農業のモデルを確立させ、横浜市内外への情報や技術の発信拠点を形成します。

- 「持続可能な都市農業モデル」の確立を目指した多様な主体との連携
●周辺地区と連携した農の魅力の発信拠点の形成
●新規就農者や担い手の育成・支援

観光・賑わい地区

テーマパークを核とした複合的な集客施設が立地し、国内外から人を呼び込み、エリアブランディングの中心的存在となる観光と賑わい拠点の形成が期待されます。地区のポテンシャルを活かしながら、新たな価値を生み出す次世代に向けたテーマパークや地域環境の創出、ヒト・モノ・コトが行き交い、地域経済を活性化させ、その効果を横浜市全域や日本各地に広げる、新たな横浜の拠点の形成が期待されます。また、国際園芸博覧会の開催を契機としたまちづくりのレガシーの継承・発展も重要となります。

- 日本が持つ文化や技術、地域資源が融合した次世代に向けたテーマパーク
●来街者が何度も訪れたい心に残る風景とエリアブランディング
●ヒト・モノ・コトが行き交い、経済が活性化する、新たな横浜の拠点形成
●市域・周辺地域の防災力向上に資する機能強化



公園・防災地区

緑の10大拠点「川井・矢指・上瀬谷地区」の一部であるとともに、国際園芸博覧会のレガシーを継承・発信する拠点として、魅力的な水と緑の環境を整備します。また、上瀬谷の記憶とともに次世代に引き継ぐ新たな緑を創出し、花や農をテーマに多様なライフスタイルを实践発信できる自然レクリエーション空間とします。広大・平坦な土地と広域的な交通利便性を活かし、広域応援活動拠点や広域避難場所としての機能を形成します。

※公園部分の計画については、「(仮称)旧上瀬谷通信施設公園基本計画(案)」を参照ください。



公園基本計画(案) WEBページ

本地区のポテンシャルを活用したグリーンインフラ・脱炭素への取組

○本市では、気候変動への適応策としての雨水の浸透・貯留、ヒートアイランド現象の緩和、良好な景観形成など、自然環境が有する機能を社会における様々な課題解決に活用する、持続可能で魅力あるグリーンインフラの視点でのまちづくりを推進しています。

- 【例】ポテンシャルを活用したグリーンインフラ、緩やかな起伏を有した現在の地形を活かしたまちづくりなど
○2050年までの脱炭素化「Zero Carbon Yokohama」の実現に向け、市民や事業者等と連携した「環境と経済の好循環の創出」につながる取組を進め、脱炭素を通じて更なる都市の成長につなげます。
○民間事業者の計画において、公共がつくるインフラ像を超えて、新たに緑や農等を介して公共空間と、民有地や生活空間がつながる、国際園芸博覧会で培った、人々の営みに根ざした身近なインフラとしてのデザインやネットワークづくり、脱炭素の先進的な取組を進めることが期待されます。

居心地がよく歩きたくなる環境と様々な交通のネットワーク

- 区域内の地区間をつなぐ道路空間を上瀬谷のイメージ形成にも寄与する景観の軸と考え、快適で魅力的な歩行者空間の形成が期待されます。
○区域外の施設や市民の森等をつなぐ歩行者・自転車ネットワークの形成が期待されます。
○来街者が利用できる様々な交通手段の導入が期待されます。



【歩行者ネットワークの概念図】

公民連携による境界のデザイン

○土地利用の異なる4つの地区が連携してまちづくりを進めていく中では、地区間のつながりを創出する境界のデザインを丁寧に進めることが重要です。

【例】道路空間と一体となった景観及び歩行者空間を形成



道路と沿道の民有地境界部で一体的な歩行者空間を形成

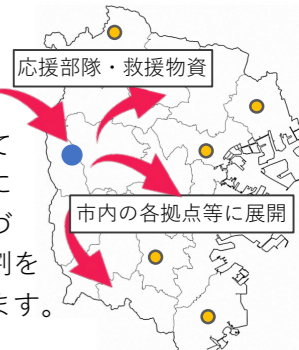
様々な機能・事業者等により相乗効果を発揮するエリアマネジメント

- 地区内の事業者等が、地区全体の価値向上のために相互に連携し相乗効果を発揮するためのエリアマネジメントを行うことが重要です。
○すでに地域で活動している団体などと連携していくことで、本地区と周辺地域の持続的な活性化を図ることが期待されます。

市域・周辺地域での災害対応力の強化

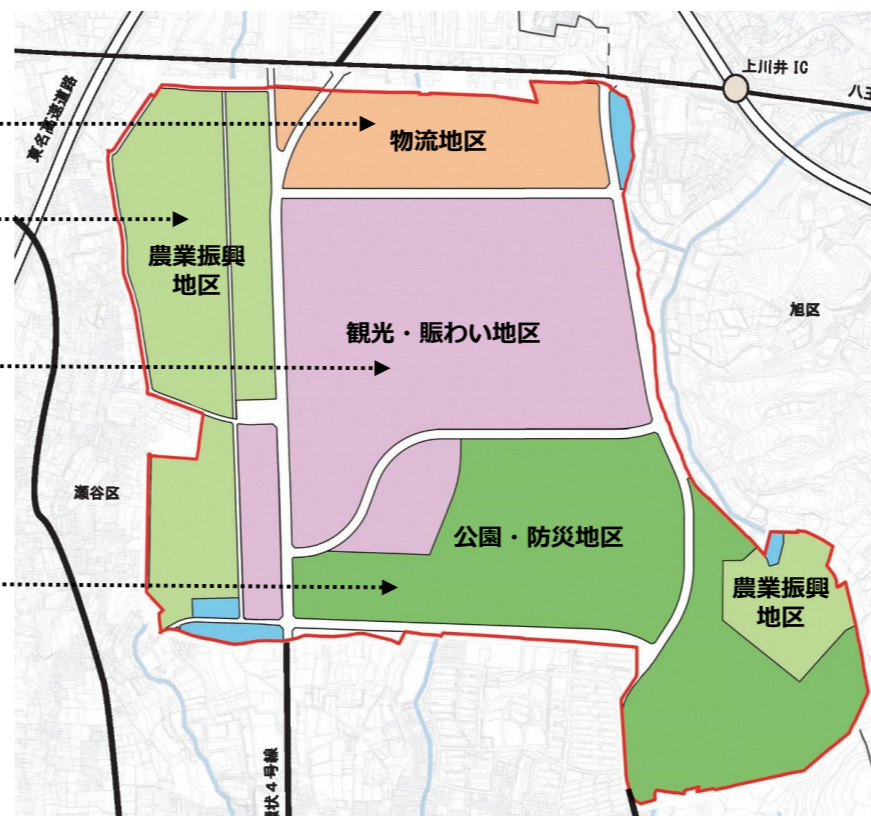
○幹線道路との近接性等を活かし、大規模災害時に市外からの広域的な物的支援等を円滑に受け入れ市内に展開する、新たな中核的拠点機能が期待され、周辺地域を含めた防災力を高めることが求められます。

- 各地区の機能、地域・民間・行政の連携により広域的防災拠点としての力が発揮され、災害に強い安全・安心なまちづくりの推進に重要な役割を果たすことが期待されます。



【中核的な広域的防災拠点機能のイメージ図】

■ご意見
記入にあたっては具体的なページや項目名など、どの部分に関連する意見かが分かるようにご記入ください。(例：P.〇〇の〇〇について、～)



- デザインノートは上位計画のもと作成しています。「横浜市中期計画」、「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」、「横浜市都市計画マスタープラン・区プラン(瀬谷区・旭区)」、「米軍施設返還跡地利用指針」
○地権者との意見交換や、市民意見募集等を踏まえて、まちづくりの方針や土地利用の考え方を「旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画(2020年3月策定)」として取りまとめ、これに基づいて新たなまちづくりの検討を進めています。